

# おお大勝利

平成 26 年度山東サッカー部報第 2 号 (4 月 18 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 今シーズン初戦を勝利で飾る

4 月 12 日 (土) 山形県リーグ 2 部 B ブロック (以降 Y 2 B と略記) の初戦が行われました。Y 2 B だけでなく、今シーズンの初戦でもある。冬の成果が試される初戦ですし、波に乗るためにも、まずは初戦勝ちたい。また、山東は秋冬まで残る (選手権まで残る) 生徒が少ない、というか近年は残る生徒がいないため、3 年生がいるうちにリーグ戦の勝ち点を稼いでおきたい。そうした意味からも、初戦勝ちたい。初戦の相手は山形中央 B (以下中央 B と略記)。B チームではありますが、強豪校の B チーム。厳しい戦いが予想されました。

会場は山形商業。良い思い出も悪い思い出もたくさん経験した思い出のピッチ。やや硬めのピッチのため、ボールが弾んでしまい、ボールが収まらない展開になりやすい。しっかりとした技術があればピッチコンディションなど問題ないのですが、未熟な山東が試合をすると、ボールが激しく行きかうだけの大味な展開になりがち。会場には、清野 OB 会長、後藤報道局長、そして多数の保護者が応援に駆け付けて下さる。佐竹校長も試合開始後ほどなくして到着。さて、初戦どうなるか。山東は 1 年生を二人先発起用し、フレッシュな布陣で臨む。立ち上がりは中央 B のペース。DF から繰り出される長いボールの質が非常に良く、身体能力に優れた FW・サイドハーフを活かす戦いをしてくる。また、長身のボランチが空中戦を支配しセカンドボールも拾うため、押され気味。「むむむ、今年の中央 B、去年よりも強い」とベンチで苦しい戦況を見つめる。しかし、決定的なシーンは作らせず辛抱していると、時間を追うごとに山東ペースに。**3 度 GK との 1 対 1 という決定的シーンを作る**も、いずれもフィニッシュの正確性を欠き、チャンスを活かせず。良い流れだが得点できないときに訪れるのが、相手のビッグチャンス。センターリングからあわやというシーンを作られる。シュートはマウスを外れ事無きを得るが、スコアレスでのハーフタイム入りは非常にもったいない印象あり。

後半も山東押し気味。というか、決定的シーンをたくさん作っているわけではないが、DF がしっかり中央 B の攻撃を抑えているため、何となく山東ペース、といったくらい。後半半ばで FW エイジ投入。彼の貪欲なゴールへの意識に期待すると、結果的に言って、その采配がドンピシャ<sup>1</sup>。**左からのセンターリングに対して、相手の後ろに回り込みゴール前でフリーになったエイジが左足インサイドで丁寧にゴールに流し込む**。山東待望の先制点ゲット！ エイジ、よく丁寧に押し込んだ。試合終了後、丁寧な得点を褒めたら、「大ぶりした

<sup>1</sup> このように書くと監督の自画自賛の文章のようですが、もっと早く起用していればもっと早く得点できたかもしれないし、先発起用していれば前半から得点できたかもしれない。今回に関して言うと「采配がうまく行った」という感慨は全くありません。

ら間違いなくミスと思ったんで当てるだけにしました」という頼もしいんだか、何なんだかわからない返答でしたが、とにかく結果オーライ。その後は、中央Bの迫力ある攻撃をなんとか凌ぎ、**今シーズン初戦は1対0の勝利**。

サイドバックで起用された1年生の**シュン**、トップ下で起用された同じく1年生の**サンペー**と**リョウヘイ**も、しっかり勝利に貢献しました！ 反省点はやはりフィニッシュの所。よく「**力はあるけど点数が入らなかった**」というまとめを使いますが、**厳しい勝負の世界を前提にすれば、「点数が入らないということは力がないんだろ」と言い返されてしまうはず**。やわなまとめは、今週末（明日19日）宴の席でお会いするゴメ父<sup>2</sup>に叱られてしまいます。**フィニッシュはスキル・フィジカル・メンタルのすべての力の結集**。まずは日々の鍛錬が求められます。

熱い応援ありがとうございました。今週すぐ、今度は山形地区リーグ（通称Mリーグ）が開催されます。Y1に在籍しているチームは自動的に県総体の切符を手にするのですが、Y2以下は地区大会を勝ち抜かなければならない。県総体に向けた重要な一戦となります。応援よろしくをお願いします。

## 4月20日（日）Mリーグ初戦 山形工業戦 11:05キックオフ @山形商業G

### ♪連絡♪

先日うれしいニュースが入りました。キジマの代（現三年生コウタの代の5つ上）のOBで東北大学の工学部に進学した**村岡君が3月に優秀な成績で同大を卒業し、東北大学総長賞を受賞しました**。パチパチパチ。村岡君はスタミナがある頑張り屋で、細身の体を駆使して競り合う姿が印象深かった。よく「村岡と競ると（細い体が突き刺さり）痛い」という評を聞いたっけ。サッカーでもひたむきに頑張っておりましたが、大学での研究においてもそのひたむきさを発揮したのでしょうか。村岡君、おめでとう！！

受賞の報に接し、この部報に掲載してよいか、2年マネのスミコ兄ヤスオ（村岡君と同期）を通じて確認したところ以下のような返答がありました。

総長賞を受賞できたのも山東サッカー部で培ったメンタルのおかげです。  
こんな私でよければどうぞ部報に載せてください。

何と謙虚なことか。

現役生諸君、山東は文武両道が校是。サッカーだけではなく勉強も頑張る、というか、サッカーで培ったことを勉強に活かし勉強で培ったことをサッカーに活かすように（それが文武両道の本当の意味だ）。良き先輩を見習いたまえ。

<sup>2</sup> コウタの代の二つ上のOBゴメのお父様で、点を獲ることの重要性をよく説いておられました。